

上京 史蹟と文化

2004 VOL. 26



美を創る

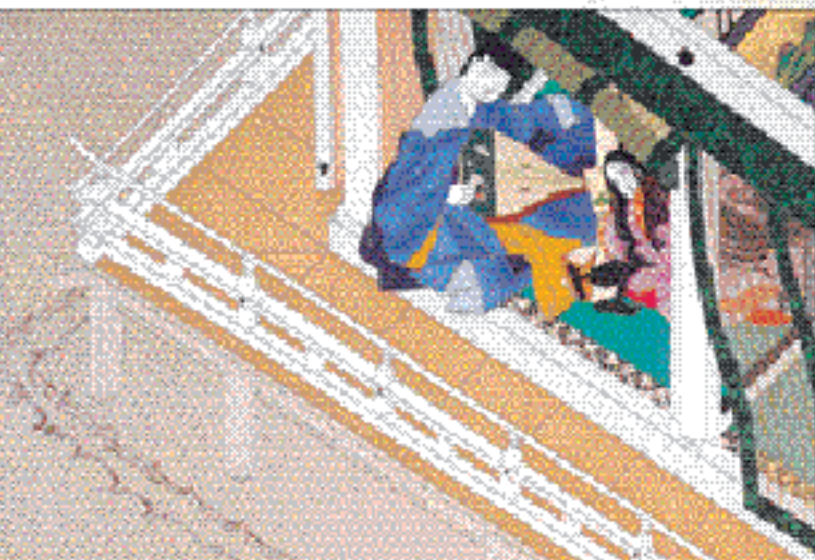


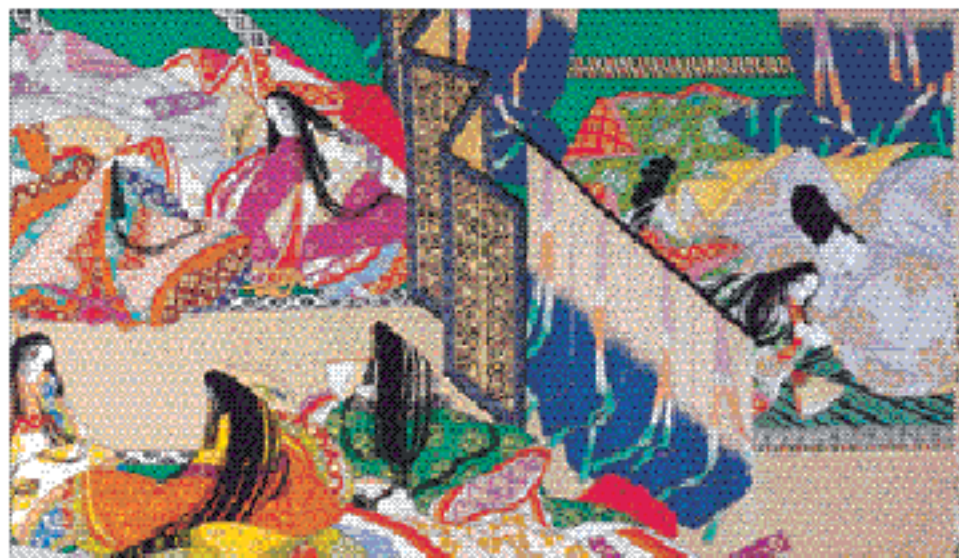
西陣織織元

山口伊太郎

西陣で織物業に携わる人々は数え切れない。しかし、その中で百歳を越えてなお現役をいうのは、山口伊太郎氏をおいて過去にもなかったであろう。何しろ明治三十四年の生まれの百二歳、百年前の日露戦争の提灯行列をあざやかに覚えておられるのだから恐れ入ったものである。

三十年前から山口氏は平安時代の絵巻の模作とされる「源氏物語絵巻」を縮織によって復元しようという壮大な計画を完遂されつつある。西陣の織屋に生まれる前から機音を聞いて育ち、三歳下の弟の安次郎氏とともに西陣織を支えてこられた。業界の要職や市会議員も勤められ、織元として戦前・戦後を通じて新しい織技術の開発に戻り続けていられたことは西陣織に携わる人々に知り尽くされていることだろう。





七十歳の時、あと十年の寿命と見て商売を離れた自分なりの織物をこしらえたいと発起された。エジプトのツタンカーメン王の展覧会で見た椅子の金漆革（きんからかわ）を織物で復原されたのがきっかけで、国王の「源氏物語絵巻」四巻を錦織で当時の色を再現し、千年後まで残したいと考えつかれる。一巻に二〜三年かかるとして十年の予想が、三年かかってやっと部屋一杯に一巻分の紋紙、試し織りに三年、十年にしてやっと一巻目が完成する。

二巻目からは開発中のコンピュータソフトの応用を思いつき、三年がかりで紋紙に代わるソフトを自分で制作される。また十年、二巻目が完成、三巻目は大会社の開発したソフトを利用し、今、最後の四巻目に取りかかっておられるという。

この制作中に、これまでの西陣織で使われていなかった新しい織技術を編み出し、変色しやすい銀箔の代りにプラチナ箔や、裏が透ける二重の織など、その後の西陣織に生かされる新しい技術を開発された。

伊太郎氏は明治初年に西陣の先覚者がフランスから輸入したシャ



ガード機の恩返しとして「源氏物語錦織絵巻」をキメ国立博物館に寄贈されている。

弟の安次郎氏も九十九歳、現役の織職人、今も機を動かしておられる。氏は七十歳から能装束の制作に力を入れ、曲家の各宗家の流儀に合わせ、織りつづけておられる。

合わせて二百歳、驚異の「美を創る」高齢者である。

千本通



上京区の千本通の北端は鞍馬口、南端は出世稲荷神社の南の道までです。全長二・三五キロ、区内の縦通りの中でも最も長いのですが、千本通の全体からみれば、ほんの一部にしか過ぎません。区内の北端で海拔七〇メートル、南端で三九メートルですから、その標高差は三メートルにもなりません。北

の方では、自転車でも徒歩でも、かなりの傾斜をもつ道であることを感じさせます。千本通と交わる横通りの道にも坂が目立ちます。これが何を意味するかは、追々わか

大 小路

史蹟シリーズ 上京の

(その8)

っていただけだと思います。

千本通は平安京の朱雀大路と重なるといわれますが、それは二条大路から南へ、九条大路までの間のことで、二条大路より北は朱雀門を入れれば一条大路までの六町の間は官庁街で、ほとんど道路はありませんでした。したがって上京区内には朱雀大路が存在することはなかったのです。とはいっても今の千本通は平安京の中軸線であったのです。

現在の千本一条の少し南に平安宮の北門である偉竪門いかりがありまし。その南は通路の両側に二町四方の大蔵省、上長者町通から下立売通と榎木町通の間あたりまでに、内蔵寮、采女町・内膳司、中和院が配置され、さらにその南は朝堂院ちようどういん（大極殿院）となります。平安京の北端の一条大路から二条大路、大宮大路から西大宮大路（現在の御前通）に囲まれた一廓が内裏で平安宮といいました。ここは大極殿をはじめ政治と儀式

の中枢の場で、内裏は天皇の住居豊楽殿ぶらくでんは宴会場でした。ところが

壮大な平安宮も律令政治の崩壊とともに少しずつ無用の宮殿と化します。やがて再三の火災などで建物は消失し、平安時代も後期ともなると朝廷の政治も儀式化し、個々の執務は役所の長官の里亭りてい（自宅）で行われるようになります。今でいう在宅勤務です。そのために甍を連ねた建物も朽ち果て、鬼が住むような廃屋と化します。中世には荒野となり、内裏の野内野うちののといわれるようになりました。今その名は千本丸太町の北西に大極殿遺趾の碑が立つ「内野児童公園」にのみ、その名を残しているのです。このあたりは山城盆地の北部に形成された緩やかな扇状地で、起伏のある土地であったと思われる。格子状の市街地には不向きな地勢であったところから、宮殿地向いていたのかもしれない。高低差を利用して建物を配置したのでしょう。

千本頭

千本通の北は鷹ヶ峯街道、南は大坂街道に続き、近世にはすべてを千本通と呼び、二条大路以南でも朱雀大路の異称のようになりま

した。鷹ヶ峯から北は長坂越として北桑田郡へ、南は大坂への重要な街道と結んでいました。

千本通の名称の由来はいろいろ伝えられていますが、中でも有力なのは墓地が多かった今の千本北大路あたりに、千本の卒塔婆そとばが立っていたことによるといいます。お



そらく千本の名は朱雀大路とはかわりなく、長坂口といわれたあたりから起こったと思われる。千本頭から始まって南へ、大坂街道にまで広がって行ったのでしよう。

現在も五月の今宮祭には、千本今出川から北へ沢瀉せまが・龍りゅう・牡丹ぼたん・柏かしわ・枇杷びわの五本の剣鉾けんぼこが出ますが、これは寺之内大宮あたりの三本の京鉾に対して千本鉾と称しています。江戸時代の千本頭は、すでに剣鉾を出せるような経済力を有する地域であることを物語っているのではないのでしょうか。千本頭の西側は紙屋川まで藪地などであったと思われませんが、東側は西陣の市街地につながっていました。今も材木商や鍛冶屋があるのも街道の名残りといえます。

千本閻魔堂と釘抜地蔵

千本通の上京区の北端は引接寺いんじょうじに始まります。引接寺は千本閻魔



堂と呼ばれ、五月の初めに境内で演じられる狂言は京都に数ある念仏狂言の一つですが、壬生狂言のような無言劇ではなく、科白せりふを伴うのが特色です。狂言堂の脇にある普賢象桜ふけんざうざくらが咲くと狂言が演じられるという由緒は、折から通りかられた孝明天皇の勅命によるといわれています。

この地に閻魔大王宮になぞらえた寺があるというのも葬送の地とのかかわりがあつたのでしよう。普賢象桜の背後には十重の名塔があります。これは二重の宝塔の上に十三重の塔の八層分を重ねた特異なもので、南北朝時代の至徳三年（一三八六）に円阿弥えんあみが勧進したという刻銘があることよって重要文化財に指定しており、古く

から紫式部の供養塔と称され、廃寺となつた紫野の白毫院びやくごういんから移されたと伝えていきます。また鐘楼に懸かる梵鐘ぼんしょうは康暦元年（一三七九）に同じ円阿弥の勧進により大工藤原国安が製作したという銘文があつて、京都市の有形文化財に指定されています。

本堂の中には丈六の閻魔王の坐像や司命しめい・司禄しりくの像、地藏菩薩像が安置され、壁画には冥府めいふの有様が描かれ、死後の世界を想像させたのでしよう。

千本閻魔堂から南へ二五〇メー



トル、寺之内通の先に、釘拔地蔵くきぬきと呼ばれる石像しゃくぞう寺てらがあります。お堂の前に大きな釘拔くきぬきが立っており、よく見ると「仏子印象ぶつしんしやう」の刻銘があります。いうまでもなく堂本印象画伯が自らデザインをして奉納されたのです。そのお堂には周囲の壁全体に釘と釘拔を打ちつけた絵馬が懸かっています。これは室町時代末期の弘治年間こうじ（一五五五〜五八）に油小路上長者町に住む紀国屋道林という人が両手を激痛に襲われ、医師の治療でもおさまらないので、石像寺の地蔵尊に願を掛けたところ、満願の日の夢に八寸釘二本を手にした地蔵尊が出現し、前世に人を呪い八寸釘を打ちこんだ応報であると告げられます。目覚めた道林の痛みは消え、地蔵尊の前には血のついた八寸釘がありました。そこで「苦を抜く」に掛けて釘抜と八寸釘の絵馬を奉納して病氣平癒を祈るようになったと伝えます。

さらに、背後の小堂には石像寺



の名となつた石造の阿弥陀如来三尊像があります。何の変哲もない石仏と思われそうですが、京都で重要文化財に指定された石仏はこれ一つなのです。この像には鎌倉時代の元仁元年げんにん（一二二四）十二月二日に造り始めて翌二年四月十五日に開眼供養が行われたという刻銘があります。実は元仁の元号は天変によつて、十一月二十日に貞応三年じやうおうを改元し、翌年の四月二十日には疫病により嘉禄元年かろくとなつていますから、わずか五ヶ月間しか存在しなかつた最も短い元号の一つです。おまけに歴史的な出来事もなかつた時期ですから、まったくこの石仏のための元号であつたようにさえ思えます。

西陣京極と五番町

千本通の一条から南の一带は、かつて西陣織華やかな頃、京都でも比類ない夜の歓楽街でした。土屋町通を中心に一条から中立売の間の一郭は、「西陣京極」といわれ、映画館や飲食店を中心として西陣界隈の織工さんたちのいやしの場でした。かつては「西陣京極」という市電の停留所もあり、今のさびれようからすると嘘のような話かもしれません。



西陣京極には七つもの映画館がひしめいていましたが、今では「シネフレンズ西陣」だけとなり、五番町の「千本日活」とともに西

陣の映画館の命脈を保っています。映画館の跡地は駐車場やパチンコ店になり、それも廃業して空家となつています。千本通などに面した「西陣京極」の看板だけが昔を語っているかのようです。



五番町遊郭も往年の姿は見るかげもなく、二階に手摺りのある家を見ると、この辺りが昭和三十三年に、水上勉の原作で佐久間良子が主演した映画「五番町夕霧楼」の舞台であつたとは思えない世の中となりました。西陣の織物業の支えがあつての遊郭は公的な規則もあつて急激に衰えました。もともと遊郭として栄えたのは休日や夜になだれこんだ織工さんたちのお蔭でした。

千本丸太町界隈

千本丸太町の交差点付近には、往時の平安宮を偲ばせてくれる標示が目につきます。東北と西南角の歩道には「大極殿跡」のタイル、東北隅の植込みには、平安時代の



大極殿、東南隅の植込に朝堂院の絵が配置してあり、この絵には厳密な考証がなされています。また、千本通の西側、丸太町を上がったところの歩道の縁石に「大極殿跡」「小安殿跡」「昭慶門跡」と彫られた小さな標石が置かれているのに気付いておられる方もあるでしょう。

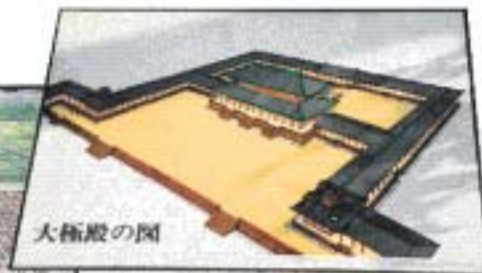
内野児童公園にある「大極殿遺趾」の石碑は明治二十九年の平安遷都千百年記念として立てられましたが、実際の大極殿はこの碑より南にあったようです。これは近

年の水道やガス工事などによる立会調査で発掘された点のような遺構の積み重ねによって、三つの標石に示された位置が確認されはじめたのでした。

朝堂院には平安宮内の最も重要な施設で、北方には東西十一間、南北四間の大極殿、その北に小安殿、さらに北に昭慶門があったこととはわかっていますが、残念ながらまだ遺構は見つかっていません。しかし、それらに接続する廻廊の遺構が千本通の東で発見されていますので、その位置が推測できる

のです。

はるか千二百年の昔、このあたりで即位の礼が行われたり、外国使節が行き来したりした様子を思い浮かべながら散歩するのも、また一興でしょう。



大極殿の図



上京の埋蔵文化財

町名に残る過去・中世京都と本満寺

京都に残る町の名前は、その昔そこに何があつたかを知る手がかりのひとつとなります。たとえば「百万遍」といえば、今は東大路

通り今出川にあるのは京都に住む

人なら誰でも知っていますが、現在地に移つたのは江戸時代の寛文二年（一六六二）のことで、もとは小川通一条付近にあつたことが

室町時代後期に描かれた洛中洛外図屏風からわかります。その証拠に、その地には今も「元百万遍町」の名が残っています。

昨年四月から七月にかけて、同志社大学歴史資料館が発掘調査を行ったのは、今出川通新町上るの新町キャンパス南をはしる道路

その昔、「御霊の辻子」と呼ばれたを西に入った「元本満寺町」

の一角で、町の名はその名の通り、

昔この地に本満寺という法華宗の寺院があつたことにちなみます。

中世京都と本満寺

中世の京都は、経済活動の発展とともに町衆が台頭してきた時代でもありました。そんな町衆たちが心のよりどころとしたのが、鎌倉時代に日蓮が唱えた法華宗です。

町衆の伸張とともに法華宗は勢力

を拡大していき、総本山は二十一ヶ寺に及んだといえます。本満寺もそのうちのひとつとして勢力を誇つた寺院でした。

室町時代も後半になると、畿内

では山城国一揆をはじめとし、民衆が自治を求めて土地の有力者と

対峙する土一揆が各地で勃発する

ようになりませんが、洛中では法華

宗徒となつた町衆が法華一揆をおこし、京都を自治都市にしようとした。しかしながら天文五年

（一五三六）、法華宗の隆盛をこころよく思っていなかつた古くから

の仏教勢力・天台宗比叡山が六角氏などの武家勢力とともに、法華

一揆と争つた天文法華の乱を起します。本満寺をはじめとする法

華宗寺院には、町衆が「構え」と呼ばれる防御施設を築いて立てこ

もり応戦しましたが、一揆は敗北。洛中に応仁・文明の乱（一四六七

〜一四七七）を上回る罹災を出したこの乱で、二十一ヶ寺総本山は

全て焼き討たれてしまいました。三年後の天文八年、後奈良天皇

の勅許が下りて、各地に散つていた法華宗寺院が呼び戻されること

となり、寺伝によれば本満寺はこの時、現在地の今出川通寺町上る

鶴山町へ再建されました。再建後は後奈良天皇の祈願寺となり、ま

た江戸時代には幕府の後ろ盾もあつ

て塔中・子院合わせて三十の堂宇

を超える大寺院になつたといえます。明治時代の廃仏毀釈のあおり

もあつて規模は縮小されましたが、現在も静かに寺勢を保つておられ、

境内には戦国の世、山陰の麒麟児として勇猛の名を馳せた山中鹿之助の墓があります。

近衛家と本満寺

ところで、新町キャンパスの立つ辺りは町名で言うところと近衛殿表町

ですが、ここには藤原氏の一流で撰閑家の筆頭であつた近衛家の別

宅がありました。この邸宅は別名「桜の御所」とも呼ばれ、時の室

町將軍が分木をねだるほどの美しいだけ桜で有名でした。

近衛家も、法華宗に深く帰依していた貴族でした。発掘現場のあつ

た元本満寺町は近衛殿表町の南隣に位置していることから、本満寺

町は近衛殿の南隣に立っていたことが想像されます。

本満寺が近衛殿に隣接したのは



溝18全景 (南より撮影)



溝18北端部



溝11、右に隣接するのが掘削前の溝21



溝21 (南より撮影)

偶然ではありません。寺伝による

と、寺は応永十七年(一四一〇)、

関白・近衛道嗣^{このえみちつぐ}の長子・日秀が、

父のこの別邸を得て開山したとあ

ります。資料によれば、はじめは

近衛殿の敷地に建立され、やが

て近衛殿の外に移されたようで、

その寺域は元本満寺町の北側全体

を占めていたと推測されます。

さて、開山当初から近衛家と深

い関わりを持っていたと考えられ

る本満寺ですが、応仁・文明の乱

以降に公家社会で活躍した近衛家

の政家・尚通親子の書き残した日

記には、実際に本満寺が近衛家と

深い関係で結ばれていた様子を表

す記事が多く見受けられます。

中世、近衛家の本来の邸宅は、

現在の上京区室町通中立売下る近

衛町にあつたと考えられています

が、応仁の乱以後、政家・尚通親

子の時代は、別宅である新町の近

衛殿を本宅として使用していたよ

うです。

日記によれば、本満寺住職が年

末年始の他たびたび政家をたずね

政家もまた足しげく本満寺を参詣

しています。政家の父や政家自身

が死んだ際には、葬儀は東福寺海

蔵院にて行われていますが、以後

の毎年の法会は本満寺で行われて

います。政家の姉二人と娘がそれ

ぞれ死に臨んだ折は息を引き取る

前に当寺にその身を移したことも

見えます。さらに文龜三年(一五

〇三)十月、本満寺で住職と寺僧

が争つた時には政家が「家門のた

めに」調停に立つたことや、尚通

の代には、当寺の敷地についての

相談のため寺僧が近衛家を訪れた

ことも書かれています。

また、政家が大酒を飲んだ帰り

に茶を所望しに寺へ寄り道したこ

とや、本満寺で藤の花が咲いたの

で、家族そろって花見に出かけた

ことなども書き残されています。

このように、本満寺は後に天文

法華の乱で町衆が構えを築き立て

こもつたとされるような町衆との

つながりとともに、近衛家のような

貴族とも深い関係を持っていた

様子がかがええます。

本満寺と「構え」

政家の日記から、本満寺には法

会が行われた本堂や、様々な坊舎

(「教林坊」「住持坊」「大坊」と見

えます)、そして「三十番神」と

「十羅刹堂」があつたことがわか

ります。「三十番神」とは法華経

守護を目的とした一種の鎮守神を

さすと考えられます。

本満寺の伽藍配置は、政家の頃

の本満寺とほぼ同時代に当たる大

永年間(一五二一〜二八)の景觀

を描いた洛中洛外図屏風・歴博甲

本(千葉県佐倉市の歴史民族博物

館所蔵)の右隻に見える、法華宗

寺院・妙覚寺（この寺も洛中法華二十一ヶ寺総本山の一つでした）が参考となるでしょう。そこには、本堂を中心に左に僧坊、右に釣鐘と鎮守社が置かれています。これは本満寺にあつた施設とほぼ同様で、おそらく本満寺もこのような姿をしていたと想像されます。

天文法華の乱の際、本満寺に「構え」や「堀」が築かれたことから、今回の発掘調査地点が「本満寺構え跡」と呼ばれているわけですが、政家の日記は、その「構え」が明応八年（一四九八）にも築かれたことを教えてくれます。「本満寺に詣る、物騒により要害有り、よりて門前に輿を立て念誦せしむ」とある、「要害」がそれを示します。この年は京中が土一揆などで不穏な空気に包まれていたらしく、同じ年に、室町幕府管領の細川政元も鷹司から堀川に至る禁裏守護のための要害の濠を築かせたようです。

この時の「構え」がそのまま天

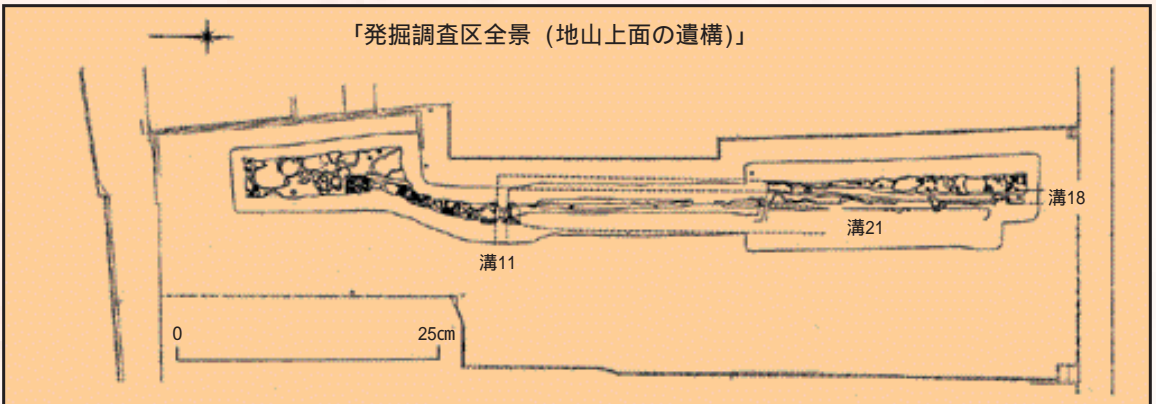
文法華の乱の頃まで使用されたかどうかは不明ですが、三條西実隆という貴族が残した日記から、文明六年（一四七四）にも、調査区の東隣にあたる現在の元新在家町一帯を「白雲構」が囲んでいたことを思わせる記述があり、この付近はそのような構えや堀が頻繁に築かれるような、町境があつたのかもかもしれません。

発掘調査より

今回の調査では、特に中世の溝状遺構が注目されます。調査区の中央でみつかった南北にはしる溝21は、幅一・八メートル以上、深さ平均八七センチ前後で、南端はトレンチ外にのびるため不明ですが長さ二三・七メートルを計ります。

その溝21に北接して、東西にはしる溝11は、幅一・二六メートル、深さ一・一八メートルあり、長さは一・八五メートル以上。また調査区の南で検出された南北方向の

「発掘調査区全景（地山上面の遺構）」



溝18は幅一・三メートル、両端はトレンチ外にのびるため不明ですが、南北に二四・七メートル以上を計ります。深さは場所によつて異なり北側が二〇センチ前後、南へ下るにしたがつて六〇センチほどの深さまで落ち込んでいきます。なお、この溝11と18はL字型にながる可能性があります。

これらの溝は、溝21が埋没後、溝11・18が埋没したという関係にあり、最終的には十六世紀前半に全て埋まったものと考えています。現在のところ、まず応仁・文明の乱の頃に溝21が掘られ、乱の終結とともに埋められ、そして少しの後の時代、すなわち天文法華の乱を前後する頃に溝11・18が相前後して作られ、その後埋められたのではないかと推測することができま

きます。この溝は本満寺が建っていた時代に相当するものですが、史料などが言つところの本満寺の防御施設「構え」跡であるかどうかは



複弁八弁蓮華文軒丸瓦



卍をあしらった軒丸瓦

きりしません。ただし、何らかの境界をしめしていたことは間違いない、おそらくこの溝の西側に、本満寺の境内があったのではないかと考えられます。

さらに、溝の埋土からは、十三世紀代に位置づけられる「卍」をあしらった連弁文軒丸瓦と、同時に位置づけられる剣頭文軒平瓦の一部、そして古代（平安時代）にさかのぼる複弁八弁蓮華文軒丸瓦の一部がみつかっています。

この瓦がこの場所に出土したこ

とは、平安時代にこの周辺に瓦を使った建物があったこと、そして中世になってこの瓦を転用して使った建物がここにあったという可能性を示唆します。洛中洛外図屏風の表現では、当時瓦葺の建物は寺院建築である場合が多くよってこの瓦を使用していたのは本満寺ではなかったか、と考えられるのです。

京都盆地に平安京が築かれた頃、一条以北は京外でした。平安時代末期から鎌倉時代にかけて、徐々

に発達していったこの新しい町は、鎌倉時代には大覚寺統と皇位を争った持明院統の本拠地となり、やがて室町時代には將軍の邸宅・花の御所が築かれるなど、武士政権の中枢となりました。権力の中枢が所在したがために、応仁・文明の乱の際には壊滅的被害を受け、天文法華の乱や、織田信長による上京焼き討ちなど度重なる災厄に見舞われました。そしてまた、この辺りの景観は、洛中のおもだった寺院を京極通に配置して寺院を作り、京都を二条城と聚楽第を中心にしたお土居で囲むという豊臣秀吉政権時の都市改造を経て、さらに大きく変わりました。

しかし、昔の記憶はあちらこちら町の名前にとどめられていません。それを手がかりに、足下に眠っている中世の上京に思いを馳せれば、通り過ぎた過去の足音がきくと聞こえてくるはずですよ。

同志社大学歴史資料館

渡辺悦子

永年の信用
まごころのご奉仕

非祭センター

公益社

本社 京都市中京区扇丸通三条下る 番075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

公益社北アイトホール(堀川) 京都市北区紫雲寺堀川東入 番075(414)0420
公益社中央アイトホール(五条) 京都市東山区五条通大和大路 番075(551)5555
公益社南アイトホール(堀川) 京都市南区堀川通八条下る西側 番075(662)0042
公益社宇治アイトホール(宇治) 宇治市橋本町(文教大学前) 番0774(20)0042
公益社東アイトホール(大津) 大津市朝日が丘1丁目 番075(523)0042



上京区民 ふれあいまつり2003

例年、区民の皆様に見てもらっています「上京区民ふれあいまつり」が十月二十五日(土)に、新町小学校で開かれました。当日は晴天に恵まれ、多くの人で賑わいました。

また、グラウンドでは、翌日の京都まつりの山車「魔法大王」を展示し、上京中学校のブラスバンド、新町小学校の音楽隊の演奏や女性会によるコーラスが披露されました。

集まった約八千人の上京区民は、美味しい食べ物や楽しいゲームなどを、まつりに興じていました。



京都まつり2003「都大路パレード」上京区民パレード隊

第十回を迎えた「京都まつり」都大路パレードは、十月二十六日(日)に御池通で行われ、上京区民パレード隊も三百十二人が参加しました。

「魔法大王」をテーマにマーチングバンド、時代衣装、区民の手作りによる山車「魔法大王」を担ぎ、「さんまさまが見てござる」の曲にあわせて踊りながら、子供から大人まで行進しました。



加藤眼科

〒603-8116
京都市北区紫竹上本町七
(堀川通北山上ル西側)
TEL(075)493-8600

診療時間

月・火・水・金
午前9:00~12:00
午後4:00~7:00
木・土
午前9:00~12:00
休診 日曜・祝日



花工房

いろいろなシーンに
応じたお花の贈り物
花束・アレンジ・etc.

—お贈り先のご予約承ります—

京都本店
京都市上京区丸太町中目黒1丁目
TEL:075-414-8700 FAX:075-414-7387
URL: <http://www.hanako.co.jp>
東山本店・西京本店・大津店





上京区民

薪 籠

すっかり上京区の秋の風物詩と

なった上京区民新能も

第三十九回を迎えて

九月十九日に行われました

露天の中 第一部は白奉神宮で

途中雨にみまわれたため

第二部は河村能舞台に

移動して行いました

第二部は時間の調整のため

出演順序を変更しながら

花柳可寿雅社中による邦舞

「娘道成寺」

宮城社麻ノ会の琴演奏

いちひめ雅楽会の舞楽「越後」

大蔵流狂言「盆山」

最後に観世流能「海士」が演じられ

五百人余りの観衆の

皆様には

十分に古典芸能の幽玄の

世界を楽しんでいただきました



秋の上京 茶会

恒例の上京区文化振興会と

上京区役所の共催する秋の

上京茶会は、十一月二十

三日に京都御苑内の拾翠

亭を会場に数千家の懸

簀によって開かれました。

四百人余りの上京区

民らが、茶室から見る九

条池の風景をめでながら

「一服の抹茶を味わいました。」



本京 玉寿軒

 〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入

 TEL (075)441-0319・414-0319

京都西陣にある染織工房で

 創られた織物地を使った

 オリジナルの和の小物・

 和の衣のお店です。



弓月 京店

 京都市上京区上七軒 201

 TEL. 075-467-8774

 FAX. 075-467-9588

<http://www.yuzuki-net.jp>



上京区民 ふれあい史蹟ウォーキング

今年第十三回目となる上京区民「ふれあい史蹟ウォーキング」は、区民の健康づくりとスポーツ事業への関心を高めることを目的に、今回は、上京区体育振興会連合会創立五十周年記念フェスティバルと併せて、十一月三十日（日）に開催されました。

参加者は、室町小学校を出発し、相国寺境内から御所を通って室町小学校に戻る、約四キロメートルのコースを歩き、日頃知らない地元の身近な史蹟の歴史に触れるとともに、清々しい汗をかきました。

十二月の人権月間に伴い、十一月十二日（金）に西陣公会館 三階西陣ホールにて人権月間のつどい、講演会テーマ「桂文也のジェンダーブレイク」が開催されました。普段身の回りにありながら、

人権月間のつどい

差別だと気付がない性差別、ジェンダー（社会的文化的に創られた性別・性差）について、落語家の桂文也さんに講演と落語をしていただきました。笑いを交えた講演会に百八十名の参加者は熱心に聞き入っていました。

上京区民ふれあい文化大学 映画と講演

今年の文化大学は、八月三十日（土）に、西陣公会館 三階西陣ホールで開催されました。山本滋生氏が、テーマ「第三回世界水フォーラム」を講演され、続いて第三回世界水フォーラム参加作品、映画「明日を作った男」田辺明朗と琵琶湖蹴水が上映されました。一五〇名の参加者は、水の大切さについて、改めて確認していました。

編集後記

山口伊太郎氏をお訪ねした時、あまりのお達者ぶりに、編集子も活力をいただいたような気分になりました。きつと「源氏物語錦織絵巻」の完成を見届けていただけると思っています。山口氏兄弟の「織ひとすじ千年の技」という書物が祥伝社から昨年未だ刊行されました。一読されることをお奨めします。

同志社大学の構内からまた遺跡が発見されました。これからも新しい発掘成果を紹介したいと思えます。今号は上京区諸団体の行事がありましたので、「上京の町家」は休みます。

(い)

耳鼻咽喉科

鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入
441-0675

診療時間

 午前 9:00~12:00
 午後 4:30~ 7:30
 午前 9:00~12:00まで
 休診 木・日・祝・土曜午後

季節料理
祇園
田



〒605-0086 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL.075-585-1915




无祖

ぼたん鍋と京料理
畑かき
京・上野区前丸五
BOUTEN KAKI
5F



特別ウェディングプラン
40名様698000円
なんと
10万円プレゼント

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン
くつろぎ
¥3,500(税別)

ホテルルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL.075-432-6161(代) FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



「上京史蹟と文化」は上京区役所地域振興課で販売致しております (TEL 441 0111)



創立以来七〇年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気になまれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る
(北野天満宮/バス停下車南100m)
TEL.463-0111(代)
http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



京都工芸大学
京式伝統工芸研究所
依屋吉富
本店 京都・室町上土売
電話 (075) 22111代
高尾店 京都・高尾上土売
電話 (075) 21111代

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラは日本農薬登録第0-3141424。
米農薬登録第0-3226913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様が目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラ」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP®に準じた製造工場で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に応えられる理由です。

※医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準



サン・クロレラは日本農薬協に認定されています。
財団法人日本農薬・栄養食品協会の認定マークは、品質別農薬基準に基づき、協会の厳正な検査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。
サン・クロレラの製造工場はIS09001の認定も取得しています。